



常磐病院の お役立ち医療コラム

今月のテーマは

「乳がんと乳がん検診」

教えて
くれるのは

乳腺外科
尾崎 章彦先生
おさき あきひこ



読者のみなさん、はじめまして。常磐病院乳腺外科の尾崎章彦と申します。現在の日本において、乳がんは最も発症数の多い女性のがんです。1年間に乳がんを発症する女性は91,605人(2017年)、実に、女性の約10人に1人が一生のうち乳がんを発症すると言われています。今回は、身近な病気である乳がんという病気について一緒に勉強しましょう。

■2年に1度は乳がん検診を！ 早期発見なら負担の少ない 治療で病気の治癒が可能です

まず、今回の記事を通してみなさんに最も伝えたいことは、40才以上の女性は最低2年に1度は検診に行ってくださいということです。というのも、乳がんは数あるがんのなかで、検診の効果が確立されている数少ないがんの一つだからです。検診によって早い段階で病気を発見することができれば、多くのケースにおいて、体に負担が少ない治療で病気の治癒を目指すことができます。その意味で

定期的な検診の受診は非常に重要です。ちなみに、いわき市が主催する乳がん検診の受診率は20%未満にとどまっています。より多くの方に検診の重要性について知っていただきたいと考えています。



同様に強調したいのが、乳がんに関する症状を自覚した場合、できるだけ早く医療機関を受診していただきたいということです。なぜならば、一般に検診で指摘される乳がんよりも症状をきっかけとして見つかる乳がんの方がより進行していることが多いからです。乳がんの代表的な症状は胸のしこりや乳首からの赤色の分泌物などです。もちろんその全てが乳がんに伴うものというわけではありません。ただ、このような症状が現れた場合、医療機関を一度受診して、深刻な病気がないかドクターと確認しましょう。

■新型コロナウイルスによる 乳がんの診療への影響

最後に、現在の新型コロナウイルス流行がこのような乳がんの診療に与える影

響について考えてみます。私が最も心配しているのは、受診控えです。新型コロナウイルスへの感染を恐れるあまり、定期的や検診受診を先延ばしにしたり、症状を自覚しているにもかかわらず医療機関への受診を控えるということが、現実起きています。受診控えが長く続けば、より進行した状態で乳がんが見つかるなど、深刻な影響をもたらす可能性があります。

このように私が訴えるのには理由があります。私は、以前いわき市の北に位置する相双地区において、東日本大震災と福島第一原発事故が現地の乳がん診療に与えた影響について調査を行いました。すると、震災前に、症状自覚後1年以上初回の医療機関受診を遅らせるような乳がん患者さんの割合は4.1%に過ぎませんでしたが、震災後は18.6%に及んでいました。震災後の環境変化で知らず知らずのうちに自身の健康や医療機関受診の重要性が下がってしまった可能性があります。

私は、「目に見えないものへの恐怖」という意味で、現在の新型コロナウイルスの流行と放射能には類似点があると考えています。不安な症状があれば、まずお電話でも構いませんので、医療機関とコンタクトをとってみましょう。もちろん常磐病院乳腺外科では飛び入りの患者さんの受診も原則受け付けています。気軽にご来院ください。

医療の面から 女性をサポート



常磐病院は「婦人科」「乳腺外科」「女性泌尿器科外来」など、女性特有の疾患に対応する診療科を揃えています。また「小児科」では、「小児アレルギー外来(予約制)」を開設しているなど、仕事と育児を両立する女性に寄り添う医療を提供しています。

他の診療科の医師と密に連携を図りつつ、その人に合った医療を提供する点も常磐病院の特徴です。



女性の皆さん

このようなお悩みはありませんか？

- ☒ 月経痛、排尿痛
- ☒ 頻尿、急な尿意と失禁
- ☒ 生理不順、不正出血
- ☒ 異常な乳汁分泌
- ☒ 乳房や脇の下のしこり
のようなものがある
- ☒ 健康診断で異常を
指摘された

Check!



当てはまる項目がある方は
そのままにせず、お早めに
ご相談ください。

常磐病院は、皆様に安心して外来受診していただくため、徹底した「新型コロナウイルス感染症対策」をおこなっています。入館時の体温測定や手指消毒など、ご協力をお願い致します。

常磐病院youtube
チャンネルはこちら



公益財団法人

ときわ会
TOKIWA-KAI GROUP

常磐病院

福島県いわき市常磐上湯長谷町上ノ台57

HP www.tokiwa.or.jp/hospital/jyoban/

常磐病院

検索



TEL 0246-81-5522(代表) ●受付時間 9:00~17:00(月~土曜日)